

## 第1回河合橋デザイン検討会議 摘録

○日 時：平成29年9月22日（金） 19時00分～20時30分

○場 所：職員会館 かもがわ 2階 大会議室

○出席者：委員9名（1名欠席）

○記 者：2名

○傍聴者：2名

### 1. 開会

#### （1）開会の挨拶

（事務局）

- ・専門家である大学の先生方，地元を代表される方々，公募に応募していただいた方々，大学生の方，河合橋とその周辺景観やまちに愛着をお持ちの皆様にご就任いただき，この場をお借りし改めて御礼申し上げます。
- ・京都市では，「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」という計画を立て，平成24年度から橋の耐震補強と老朽化修繕を計画的，集中的に行っています。
- ・現在，河合橋は耐震補強・老朽化修繕の設計中であり，この会議のご意見を受け，設計をまとめ，早期に工事に入っていきたいと考えています。
- ・デザイン検討会議について少しだけ触れさせていただきます。この会議のきっかけは，今から約15年前に「明日の鴨川の橋を考える会」という委員会を京都市が設置し，多様な分野の専門家の先生方に広範な市民のご意見を伺いながら，鴨川の橋はどうあるべきかという指針を都市景観やまちづくりの視点からの提言として，取り纏めていただいたものです。その提言の中に，鴨川の橋のデザイン委員会の設置というものがあり，これを受けて，橋の架け替えや大規模補修を行う場合にデザイン検討会議を設置しています。これまでに，御菌橋，北大路橋，賀茂大橋，二条大橋でデザイン検討会議を設置しています。河合橋は鴨川に架かる橋ではありませんが，鴨川と高野川の合流点である鴨川デルタに位置しており，出町橋，賀茂大橋と一体となり京都を代表する景観を形成する重要な橋です。一方，河合橋の工事では，補修工事の範囲内ではありますが，歩道の拡幅や歩行者の安全性の向上を図ることなどを考えています。そのため，「文化首都・京都」にふさわしい景観に調和した補修・補強工事とするため，このデザイン検討会議を設置しました。河合橋周辺につきましては，世界遺産の下鴨神社に隣接し，風致地区のなかでも特にきめ細やかな制限がある重要な場所でもあります。市民の憩いの場所だけでなく，多くの映画やドラマの舞台となっている全国的に有名な場所でもあります。
- ・さらに，河合橋は災害発生時に緊急物資の輸送を行う緊急輸送道路に位置付けられており，防災上重要な道路の一部となっています。このように重要な橋であるとともに，引き続き市民の皆様にご愛着をもってもらえる橋としたいと考えています。会議は，3回から4回と複数回となりますが，委員の皆様には忌憚のないご意見を頂けるよう何卒よろしくお願い申し上げます。

#### （2）委員の紹介

## 2. 議事内容

### (1) デザイン検討会議の概要について

【事務局より資料4の説明】

### (2) 各委員の河合橋について思うことなど

(議長)

- ・私自身、毎日河合橋を利用しており、歩道が狭いことが非常に気になっていた。
- ・御蔭橋の場合も歩道が狭く地元の方が不安に思っておられ、現在、ようやく架け替えが行われている。
- ・皆様の橋に対する思いやご要望をお聞かせください。お一人5分くらいでお願いします。

(委員)

- ・歩道が狭いという印象が一番で、もう少し広がれば良いと思っている。
- ・小学生が集団で河合橋を渡る際、歩道が狭いと思っていた。
- ・市バス、大型トラック、自転車、バイクが通り、歩道に子供が並んで歩く光景は非常に危険で、幅の広い橋にできないかと思っている。

(委員)

- ・河合橋は、伊勢神宮の宇治橋に似ている。河合橋は、下鴨神社への参拝経路だったといえると思う。
- ・河合橋の最初の設計者である武田五一先生が、どういうコンセプトでデザインしたか知りたいと思っている。

(委員)

- ・河合橋の歩道は、ベビーカーどうしが離合できず、どちらかが車道へ降りなくてはならないほどに狭いため、対策を考えてほしい。

(委員)

- ・ベビーカーだと危ないと感じている。本来は、ベビーカーが自由に通れるのが理想と思う。
- ・観光客が、アニメの聖地巡礼や葵祭等で河合橋を写真に残す機会も多く、せっかく歴史のある橋なので、今よりも綺麗で映えるものにしていきたいと思う。

(委員)

- ・河合橋との接点としては、東日本大震災で京都に移住し、京都で就職や進学した私にとって、自分と仕事（職場）と学び（大学）を結びつけた橋であり、景観の美しさも含めて大事に思っている。

(委員)

- ・河合橋周辺の鴨川デルタは、学生にとってよく集まって遊ぶ場所であり、そこから眺める河

合橋の風景も一つの顔だと思う。

- ・河合橋を改修することで、そのエリア全体を高めるようなデザインにしたいと思っている。

(委員)

- ・昔と今では求める安全性が違い、安全のために何かを犠牲にしなければならないことはある。
- ・最初に橋を作られた方も納得できるような、今の社会に応じた対策をすることをコンセプトに考えるというのが主流となってきている。
- ・武田五一先生が関わられている橋梁群ということは、デザインを考える上で非常に大きな意味を持つと考えている
- ・外から見られる橋という意識をしっかり持ち、皆さんと一緒に良いデザインの検討を行っていききたい。

(委員)

- ・デザインを考える上で、武田五一先生の考え方がどういうものなのかということが重要であるが、資料が残っていないため、出来た物を見つめながら推察するしかない。
- ・河合橋の高欄のモチーフは、糺の森が下鴨神社の参道の意味付けがあるため、神社建築と関係があると考えている。
- ・武田五一先生は、京都の風致、風景、自然と歴史の文化を守ることを大切にしていたと考えられる。
- ・河合橋の歴史的な風景がどう維持されていくのか、サステナビリティ（持続可能性）としてどう維持されるかがすごく大事だと思っている。
- ・鴨川デルタは賑わいの場ともなっているので、水辺とその風景を大切にしてきた橋として考えていきたい。

### (3) デザイン・コンセプトについて

【事務局より資料4の説明】

(議長)

- ・「デザイン・コンセプト」について委員の皆様と考えていきたい。
- ・鴨川の橋の根本理念として「かつて鴨川に架かっている橋は、人々が行き交うみやこの中心であり、橋はみやこを荘厳していたと言えます。鴨川の橋のにぎわいを再び取り戻すには、歩行者を再び主役とし、分断された地域や歴史、生活と自然を繋ぐ鴨川を荘厳するものという構えが大切です。このような橋の在り方を追求することは、まちづくりの重要な視点と言えます。」ということが挙げられます。  
これを具体化していくために基本的なコンセプトをディスカッションしていただきたい。
- ・委員から「デザイン・コンセプト」に関して積極的なご意見をいただいております。ご説明をお願いします。

(委員)

- ・そもそも、河合橋とは高野川と鴨川が出合う意味で、河と河が合う橋であり、橋の名前の由来である。
- ・京都を代表する景観の一つである鴨川デルタに架かるという意味では、橋を渡って、河と人が出会うという橋でもある。
- ・学生や親子連れが賑わう市民の憩いの場として、人と人が出会う橋でもある。
- ・そこで、それぞれに愛を交わし合えるような橋でありたいという思いから「交愛橋」というコンセプトを提案させていただいた。

(委員)

- ・人が安心して通れる橋としたい。

(委員)

- ・3つの橋（河合橋、賀茂大橋、出町橋）、鴨川デルタ（中洲）、鴨川公園を総合的にデザインする必要があると考えている。
- ・鴨川デルタは、学生が活用しており、パッチギ（映画）ではすごい舞台となっていた。
- ・河合橋から風景を眺めたり、写真を撮るためのビューポイントがあってもいいのではないか。

(議長)

- ・北大路橋では、真ん中に物見橋を設けた。
- ・河合橋と出町橋は構造が違う（河合橋にはブラケットがあり、出町橋にはブラケットがない）ため、賀茂大橋から見る2橋の連続性は乏しい。
- ・河合橋の整備を機に橋を飾り立てるスポットを作り出すいい機会になればと考えている。

(委員)

- ・出町柳駅まで京阪電車が延びたことで人も増え、河合橋の重要性が年々高くなっているように思う。

(委員)

- ・河合橋は、出町柳駅が側にあることから、大阪等から訪れる人を迎え入れる玄関である。
- ・昭和13年に改修された際に色々、武田五一先生のデザインが変更（親柱の形状が擬宝珠から灯籠に変更されていること等）されていると説明があったが、どうしてそのようなデザインになったのか？

(事務局)

- ・想像ですが、賀茂大橋のデザインに似ている所があるため、昭和10年の水害で流れなかった賀茂大橋を参考にして作り直したのではないかと考えている。

(委員)

- ・擬宝珠がある構造は、近世以前から続く橋の一つの典型で、近年になり、都市計画の時に大

きい道路を整備して灯籠をつけた。

- ・武田五一先生は、その流行に併せて親柱を灯籠にしたのではないかと推測しています。

(議長)

- ・賀茂大橋は、灯籠が連なっているが河合橋には、中間柱の2本に灯籠がない。
- ・灯籠で鴨川デルタを囲うようにすれば、「荘厳する」(厳かに飾り立てる)ということできると考えている。

(委員)

- ・これだけ親水空間が整備されている所はないと思うので、「河と人が合う橋」というのは良いと思った。

(委員)

- ・必ずしも武田五一先生が作られたそのままを再現すればいいとは思っていない。
- ・京都人として古いだけでなく新しさを取り入れ、歴史に敬意を示しながら今の技術をうまく生かしてデザインに繋げていきたい。
- ・北から南を見ると逆に賀茂大橋があり、ブラケットの縦のラインが並んで見えるところは、残したほうが良いと考えている。

(委員)

- ・河合橋は、まちとまちを繋ぎ、聖域である森と自然である川と町を繋いでいる。
- ・このような風景を眺められるような「繋ぐ」橋としたいと考えている。
- ・河合橋のブラケットについては、欄干の柱の数と同じ本数で線が綺麗にそろっており、影ができるということを大事にしていきたいと考えている。

(事務局)

- ・議長と相談した上で、本日いただいた意見をキーワードとしたデザインコンセプト(案)を何パターンか作成し、次回に議論を行うこととしたい。

#### (4) デザイン検討対象施設について

【事務局より資料4の説明】

(議長)

- ・デザインポイントにつきましては、次回に皆様のご意見をいただきたいと思います。

(以 上)